

師匠と弟子の物語

みはら さちこ
三原佐知子

忍耐、自己犠牲、謙虚さの上に
咲いた芸の大輪



文・おさだ衛



みはら さちこ三重県熊野市出身。本名・鳥越幸子(さちこ)。父は船大工。叔父の浪曲師・近江勝(おうみ・すぐる)に勤められ昭和29年、15歳でデビュー、近江五十鈴が芸名だった。昭和34年に小松千鶴と改名。昭和53年に三原佐知子となる。上の写真は巡業中のスナップ。近江勝は後列の左端。その前が三味線を持つ叔母・近江朝江(あさえ)。当人は後列真ん中。19歳の看板娘だ。今は関西浪曲界のリーダー格。十八番は『命はてるまで』『三味線やくざ』ほか。

三原佐知子の浪曲は聞かされた時に驚きと発見がある。鍛えぬいた声、練り込まれた演題、全身から沸き立つ熱気。いまや浪曲界の顔になりつつある彼女を支えているものはなにかを聞いた。

匠の近江勝が彼女に「さっちゃん、お客さんが泣いとったで」というと「はい、毎晩のことです」と答えて笑われた。いずれもおかっぱ頭でデビューしたころの微笑ましい話だ。

「叔父の近江勝が師匠ですが、いろいろと教えてくれたのは師匠の奥さん、つまり叔母の近江朝江でした」

「叔母は叔父の合三味線でした。浪曲の手ほどきは叔母からしてもらいました。あんたはもつと高い声を出さなあかん」と毎日、稽古をつけてもらいました。芸だけではなく、洗濯から料理、掃除の仕方まで女ひととおりのことは叔母から仕込んでもらいました」

「毎日、朝から山に川に谷に向かい、声を出して鍛練しましたよ」

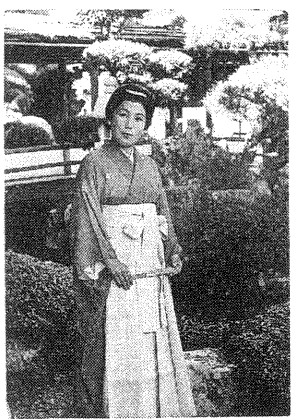
15歳で入門して10年間修行して独立という日のことだ。

「なにがなにしてなんとやら」という文句で声を出していたせいか、ある時の舞台の外題づけで本当に「なにがなににして」と語ってしまったが、客には大受けだった。

叔母の朝江は「この10年、さぞつらかったやろ。そやけど憎くてあんたにきつく当たったんやない。どこに嫁にいつても笑われんようにと」というと「恨んではおりません。感謝しています」と叔母の手を取って泣いた。

最初のネタが「出世の草鞋(わらじ)」で、これが客の涙を誘った。師

思い出話を淡々と語る三原佐知子の目に光るものがあつた。



22歳、広島市で。当時は小松千鶴。「20歳くらいからテール掛けを使わないで立体浪曲を意識していたんですよ」

修行中に学んだものは感謝の心、自己犠牲、謙虚な姿勢といえる。豊かすぎる物質文明に毒された現在、こういう選択できない忍耐を強いられる境遇の「価値」を再考してもよいだろう。「その恩人の叔母は今年の7月に92歳で亡くなりました」。ふとついた深

い溜め息に万感がこもっていた。
昭和46年、これから一流浪曲師の道
を歩もうとした矢先、バックでギター
伴奏を務めていた夫が急死、当時2歳
と4歳の男の子を抱えて悲運を嘆い
た。が泣く間もあらばこそ、三原佐知
子は研鑽を重ねて今の地位を築き上げ
た。

「夫の死に顔が綺麗で私にがんばれよ
と言っているようでした。子供を育て



昭和53年、大阪・郵便貯金ホールで「三原佐
知子」への改名披露公演。左は京山幸枝若
右は先代天光軒満月。「幸枝若師には、浪曲
の火を絶やささんように頼むで、さっちゃん
と激励されました」

上げますと、その場で誓いました。親
子3人が無事、暮らしていけるように
神や仏に祈りました」

女手ひとつで二人の子供を守って成
長させる苦労は、まさに一席の浪曲を
聞いているような感慨を覚えた。

苦労や涙がしみていいるから三原佐知
子の浪曲は迫真力が増すのだ。

このへんで浪曲の今後について聞い
てみよう。

「若い世代のファンを取り込むなら、
昔ながらの舞台ではダメだと思いま



歌謡ショーも行なう。ヒット曲も多く、歌
のうまさには定評がある。

す。見やすく聞きやすいものにして、
浪曲は古臭いと思わせてはいけませ
ん」

立体浪曲と称しテーブル掛けははず
し、その代わり音響と照明をフルに活
用する舞台は、さながら一人芝居の面
白さだ。『お梶藤十郎の恋』『ああ残
留孤児』『母恋あいや節』など見事な
作品に昇華している。

この12月5日(土)、大阪の国立文
楽劇場の「師走名人浪曲大会」でトリ
を取る。三原佐知子の創意がある重厚
で胸にずしんと来る舞台が見られる。

「関西では浪曲の関係者が数えられる
ほど少なくなりました。浪曲を残すた
めに今こそ頑張らねばと思います」

関西のみならず浪曲界の浮沈の鍵を
握るといつても過言でない三原佐知子
に寄せられる期待は大きい。



日本舞踊は昭和48年から。「所作で情景や人
の心が表わせます。一手ひとつが芸なん
です。浪曲の舞台のために続けています」

浪曲...

42
52

これほどすばらしい芸は他にはないと思
います。

浪曲家の皆さん...頑張ってください。

多くのファンを楽しませて下さい。

葛飾区・坂本豊吉